

Medical News

キッコーマン メディカル ニュース

KIKKOMAN

食と健康を目指して

第17号

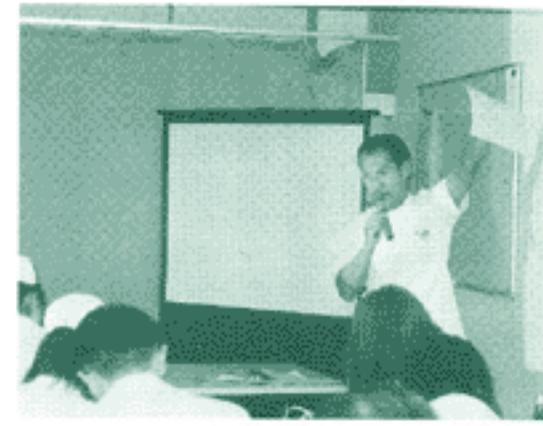
平成 14年 6月1日発行

発行 キッコーマン総合病院広報委員会
〒278-0005 野田市宮崎100 電話 04-7123-5911 FAX 7123-5920

ホームページアドレス <http://www.kikkoman.co.jp/hospital/>
メールアドレス hospital@mail.kikkoman.co.jp

信頼される 循環器科を目指して

循環器内科部長 村田 博

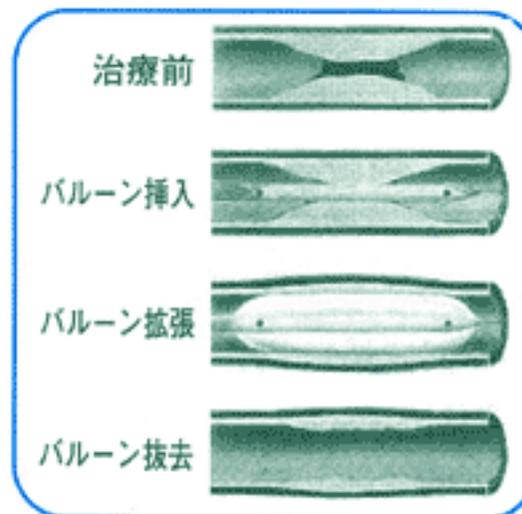


院内循環器科勉強会にて
村田医師

このたび、平成14年4月から当院で循環器科を新たに開設いたしました。循環器科といっても聞きなれない方もいらっしゃると思いますが、主に心臓や血管の病気を中心に治療するところです。心臓の病気とは虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、不整脈、心不全などがあります。最近では高血圧、高脂血症、糖尿病の患者さんが増えるに従って、心臓病も増加してきており社会的に重大な問題になってきています。心臓の病気は突然発症し、急激に重症になってしまふことも少なくありません。したがって患者さんの生死に関わるものが多く、循環器科は救命救急的な役割を担います。

そのための設備として当院では今年の8月から心臓カテーテル室を開

設いたします。カテーテルとは細い管という意味で、心臓カテーテル検査では造影剤を使って心臓を栄養している血管を写し出します。その血管が狭い場合に、小さな風船を狭窄部に運び、そこで風船を膨らませて狭窄を拡張する風船治療を行います。これにより狭心症や心筋梗塞の急性期疾患はほとんどが治療可能になり、万が一皆様がこのような病気にかかっても安心して治療が受けられるようにいたします。



風船治療

ところで私の考える循環器科というのは、心臓や血管に関することだけやっていたらよいというものではありません。久保田院長が最近出版した「サラリーマンの病気学」という本の中にも述べられていますが、生活習慣病である高血圧、高脂血症、糖尿病、肥満などは動脈硬化を引き起こし、心筋梗塞や脳梗塞の危険因子となります。

現代の日本人は生活習慣の変化からこれらの病気がとても多くなっ

きており、死亡原因の上位を占めるようになってきました。これからの医療は病気になってしまった人だけを診ていくのではなく、病気になりそうな人を早期発見して大事に至らぬように管理することに最も力を注ぐべきだと思います。



最近のさまざまな統計をみると、現在の医療が生活習慣病を十分に管理できているとは思えません。その原因のひとつに医師と患者さんのコミュニケーション不足が挙げられます。治療で一番大切なことは患者さんとの対話を通じた人間関係であり、何でも言い合える医師と患者の関係築き上げたいと思っております。そのために外来ではできるだけ患者さん一人当たりの時間をゆつくりとりたいと考えています。どしどし率直な御質問、御要望をお聞かせください。

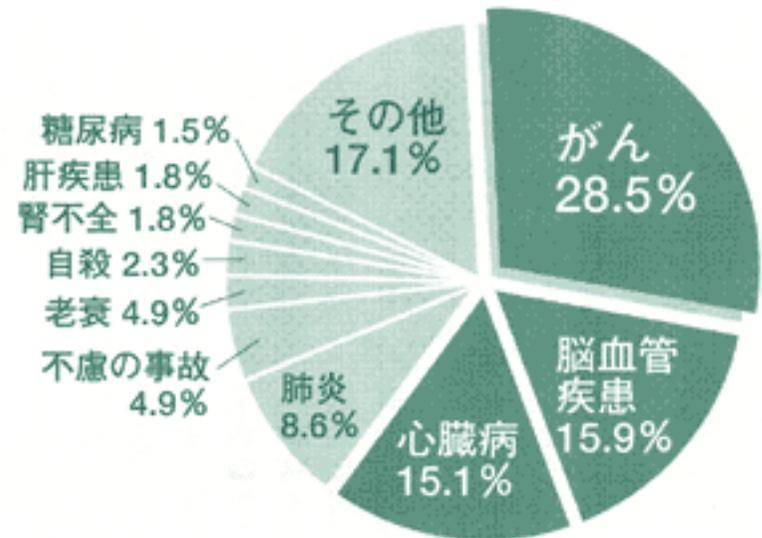
高血圧症について

循環器内科部長 村田 博

高血圧は自覚症状がないため、米国では「サイレント・キラー」（静かなる殺人者）と呼ばれています。それは高血圧が突然死を起こす心臓病や脳卒中の重要な危険因子であるからです。このことは、米国のフラミンガム・スタディ（長期間にわたるフラミンガム地区の住民を対象にした心血管系疾患の危険因子を探る調査研究）や九州大学が行っている久山町の調査などで実際に明らかにされています。

日本では、近年高血圧治療の普及により脳卒中、とくに脳出血の発症率は低下傾向を示していますが、心臓病の発症率は逆に増加する傾向がみられます。その理由は、虚血性心疾患では高血圧だけでなく、肥満、高脂血症、糖尿病、インスリン抵抗性（糖尿病予備軍の状態）といった危険因子が重なって発症することが多いからです。これらの危険因子は食生活や運動、また喫煙など生活習慣に深くかかわっているため生活習慣病といわれているものです。高血圧、肥満、高脂血症、糖尿病など1つ1つは軽症であっても、2つ3つと重なると心筋梗塞など虚血性心疾患の発症率が高まります。軽症だからといって見過ごすことはできないことをぜひ知っておいて下さい。

日本人の死因

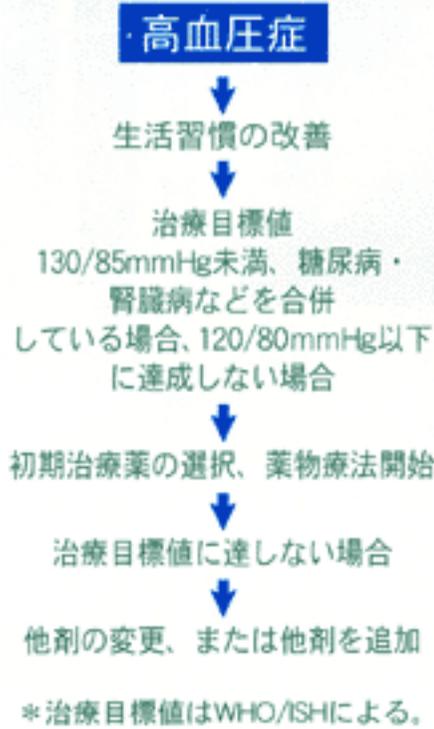


（厚生省大臣官房統計情報部「平成7年人口動態統計」より）

*血圧測定

血圧測定は水銀血圧計によって30分以上の禁煙とカフェインを取らない状態で安静坐位で測定したものが基準となります。カフを心臓の高さに保ち、複数回測定したうちの安定した2回の値の平均をとってください。

高血圧症治療の大まかな流れ



高血圧の段階的治療

本態性高血圧の原因は遺伝的要因と生活習慣が複雑に絡み合っています。遺伝はどうしようもないので、まずは生活習慣（修正リスト①）を改善していただきます。3ヶ月してからも140/90以上であれば薬物治療を開始します。ただし、糖尿病や多臓器障害（脳、心、腎臓）がある場合は、高リスクと考慮して最初から治療を積極的に行います。

◆①生活習慣の修正リスト

- ①食塩1日7g以下
- ②適正体重の維持（理想体重の+20%以内）
- ③アルコール制限（ビール大瓶1本、日本酒1合、ワイン240ml以下）
- ④コレステロール、飽和脂肪酸を控える（肉の脂肪、バター・ラード等）
- ⑤有酸素運動をする
- ⑥禁煙する

◆各年代別降圧目標

60歳以下	130/85 未満
60歳代	140/90 未満
70歳代	150/90 未満
80歳以上	160/90 未満

◆血圧の評価

分類	収縮期血圧		拡張期血圧
至適血圧	120未満	かつ	80未満
正常血圧	130未満	かつ	85未満
正常高値血圧	130以上140未満	または	85以上90未満
軽症高血圧	140以上160未満	または	90以上100未満
中等症高血圧	160以上180未満	または	100以上110未満
重症高血圧	180以上	または	110以上
収縮期高血圧	140以上	かつ	90未満

高血圧治療は生活の習慣の改善が基本です。当院の循環器外来でも皆様の健康をお守りするため生活指導を致します。

常勤外来担当医師紹介

 <p>院長 (外科) 久保田 芳郎 くばた よしろう</p> <p>専門分野：消化器外科、大腸肛門外科 東京大学1974年卒業 (医局：東京大学第一外科)</p> <p>医学博士、日本大腸肛門病学会評議員・専門医、日本消化器病学会関東支部会評議員、日本外科学会認定医、日本消化器外科学会指導医・認定医、日本消化器病学会専門医、日本医師会認定健康スポーツ医、日本医師会認定産業医、日本人間ドック学会評議員</p>	 <p>元院長 (内科) 福永 和雄 ふくなが かずお</p> <p>専門分野：呼吸器内科、感染症 千葉大学1949年卒業 (医局：千葉大学第一内科)</p> <p>医学博士、日本内科学会認定医、日本医師会認定産業医</p>	 <p>産婦人科部長 川口 武宏 かわぐち たけひろ</p> <p>専門分野：産婦人科学一般 東京大学1970年卒業 (医局：東京大学産婦人科)</p> <p>医学博士、日本産婦人科学会認定医、優生保護医</p>	 <p>小児科部長 荒山 隆 あらかや たかし</p> <p>専門分野：アレルギー、小児科学一般 群馬大学1984年卒業 (医局：東京大学小児科) (東京大学農学部1977年卒業)</p> <p>日本アレルギー学会認定医、日本小児科学会専門医</p>					
 <p>副院長・内科部長 三上 繁 みかみ しげる</p> <p>専門分野：消化器内科、肝胆膵内科 千葉大学1986年卒業 (医局：千葉大学第一内科)</p> <p>医学博士、日本消化器病学会関東支部会評議員、日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本超音波医学会指導医・専門医、日本消化器内視鏡学会認定医・専門医、日本医師会認定健康スポーツ医、日本医師会認定産業医、日本感染症学会認定ICD(感染制御医) 日本人間ドック学会指定医</p>	 <p>外科部長 川口 米栄 かわぐち よねえい</p> <p>専門分野：消化器外科内視鏡外科呼吸器外科 東京大学1987年卒業 (医局：東京大学第一外科)</p> <p>日本外科学会認定医、日本消化器外科学会認定医</p>	 <p>整形外科部長 岡田 基 おかだ はじめ</p> <p>専門分野：関節外科 筑波大学1989年卒業 (医局：筑波大学整形外科)</p> <p>日本体育協会認定スポーツ医、日本医師会認定産業医</p>	 <p>消化器内科部長 秋本 政秀 あきもと まさひで</p> <p>専門分野：消化器内科、肝胆膵内科 千葉大学1990年卒業 (医局：千葉大学第一内科)</p> <p>日本消化器病学会専門医</p>					
 <p>外科医長 中山 洋 なかやま ひろし</p> <p>専門分野：消化器外科、脳神経外科 東京大学1992年卒業 (医局：東京大学第一外科) 日本外科学会認定医</p>	 <p>外科医長 金沢 孝満 かなざわ たかみつ (新任)</p> <p>専門分野：消化器外科 東京大学1993年卒業 (医局：東京大学第一外科) 日本外科学会認定医</p>	 <p>循環器内科部長 村田 博 むらた ひろし (新任)</p> <p>専門分野：循環器 東京大学1994年卒業 (医局：東京大学循環器科) 日本内科学会認定医・専門医、日本医師会認定産業医</p>	 <p>眼科部長 大平 文 おおい ひろあや (新任)</p> <p>専門分野：眼科一般 慶應義塾大学1995年卒業 (医局：慶應義塾大学眼科)</p>	 <p>産婦人科 遠藤 正裕 えんどう まさひろ</p> <p>専門分野：不妊症 獨協医科大学1993年卒業 (医局：東京大学産婦人科) 日本産婦人科学会認定医</p>	 <p>整形外科 山岡 弘明 やまおか ひろあき (新任)</p> <p>専門分野： 筑波大学1998年卒業 (医局：筑波大学整形外科)</p>	 <p>内科 吉住 博明 よしずみ ひろあき</p> <p>専門分野： 千葉大学1999年卒業 (医局：千葉大第一内科)</p>	 <p>内科 須賀 ひとみ すが ひとみ</p> <p>専門分野： 千葉大学2000年卒業 (医局：千葉大第一内科)</p>	 <p>外科 八木 浩一 やぎ こういち (新任)</p> <p>専門分野： 東京大学2001年卒業 (医局：東京大学第一外科)</p>

診 療 担 当 表

受付時間：午前8時～11時 午後1時～3時（小児科のみ診察は、午後2時30分より）

この予定表は2002年 6月 1日現在のものです。都合により変更する場合があります。

診 療 科		診 療 内 容	月	火	水	木	金	土
内 科	午前	総 合	福 永	福 永	吉 住	福 永	福 永	吉 住
		消 化 器	三 上	須 賀	秋 本		三上/須賀	秋 本
		生活習慣病		麻 生				
		循 環 器		村 田	村 田	村 田		村 田
	午後	呼 吸 器	赤出川				伊 藤	
		腎 臓						太 田
		消化器内科		吉 住	須 賀			
		生活習慣病					若 林	
外 科	午前	循 環 器					村 田	
		呼 吸 器	赤出川			伊 藤		
		総 合・消化器	久保田	中 山	川口(米)	川口(米)	久保田	川口(米)
			中山/金沢	金 沢			金 沢	中 山
産 婦 人 科	午前	総 合	川口(武)	遠 藤	川口(武)	川口(武)	遠 藤	川口(武)
	午後	総 合	遠 藤		川口(武)		遠 藤	
小 児 科	午前	総 合	荒 山	荒 山	荒 山	林	荒 山	荒 山
	午後	総 合	荒 山	荒 山	荒 山	赤木/阿波	荒 山	
整 形 外 科	午前	総 合	落合/岡田	岡田/山岡	野 内	尾登/山岡	岡田/山岡	岡 田
耳 鼻 科	午前	総 合	井 関	井 関	井 関	久 松	井 関	井 関
	午後	総 合			井 関	久 松		
眼 科	午前	総 合	山 崎	大 平	大 平	中 川	大 平	大 平
	午後	検 査 の み		大 平	大 平		大 平	
皮 膚 科	午後	総 合	根 本		村 野		大 井	
泌 尿 器 科	午後	総 合			根 岸	根 岸		
脳 神 経 外 科	午後							河野/浅野

全科で予約診療を実施しています。電話での予約受付時間は、午後2時より4時まで。
 専用電話番号：04-7123-5932（内科・産婦人科・耳鼻咽喉科・眼科）
 04-7123-5919（外科・整形外科・皮膚科・泌尿器科・脳神経外科）

◎ 受診の際は診察券をお忘れなく、
 月初めの受診日には保険証をお
 持ち下さい。

おもな非常勤外来担当医師紹介

 <p>整形外科 (月曜日午前) 落合 直之 おち ちのり なお ぬき</p> <p>専門分野：上肢機能外科 東京大学1973年卒業 (医局:筑波大学整形外科)</p> <p>医学博士、筑波大学整形外科教授、日本整形外科学会認定医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、日本整形外科学会評議員、日本手の外科学会評議員、日本臨床スポーツ医学会評議員、日本肘関節研究会理事</p>	 <p>整形外科 (水曜日午前) 野内 隆治 や ない たか じ</p> <p>専門分野：整形外科一般 信州大学1996年卒業 (医局:筑波大学整形外科)</p>	 <p>リウマチ科 (木曜日午前) 尾 登 誠 お のぼり まこと</p> <p>専門分野：リウマチ関節疾患・骨軟部腫瘍 筑波大学1987年卒業</p> <p>日本整形外科学会認定医、日本リウマチ学会認定医、日本リウマチ財団登録医</p>	
 <p>小児科 (木曜日午前) 林 泰 秀 はやし やす ひで</p> <p>専門分野：血液腫瘍学、分子生物学 東京大学1974年卒業 (医局:東京大学小児科)</p> <p>医学博士、東京大学小児科講師、日本小児科学会専門医、日本血液学会認定医・指導医、日本人類遺伝学会認定医・指導医</p>	 <p>小児科 (木曜日午後) 赤木 美智男 あかぎ みちお</p> <p>専門分野：小児循環器病学 東京大学1979年卒業 (医局:杏林大学小児科)</p> <p>医学博士、杏林大学小児科助教授、日本小児科学会専門医</p>	 <p>耳鼻科 (木曜日午前・午後) 久松 雄志 ひさまつ ゆうし</p> <p>専門分野：耳鼻科一般 獨協医科大学1992年卒業 (医局:東邦大学耳鼻科)</p> <p>日本耳鼻咽喉科学会専門医</p>	 <p>内科 (土曜日午前) 太田 義章 おおた よしあき</p> <p>専門分野：腎臓内科・脂質代謝 千葉大学1978年卒業 (医局:筑波大学腎臓内科)</p> <p>医学博士、日本内科学会認定医、日本腎臓学会専門医</p>
 <p>生活習慣病 (火曜日午前) 麻生 好正 あそ う よしまさ</p> <p>専門分野：糖尿病、内分泌学 群馬大学1987年卒業 (医局:獨協医科大学一般内科)</p> <p>医学博士、獨協医科大学内科助教授、日本糖尿病学会指導医・専門医、日本内分泌学会評議員・専門医、日本内科学会内科専門医</p>	 <p>生活習慣病 (金曜日午後) 若林 貞男 わかばやし さだお (新任)</p> <p>専門分野：糖尿病、内分泌代謝 獨協医科大学1998年卒業 (医局:獨協医科大学越谷一般内科)</p> <p>日本内科学会認定医、日本医師会認定産業医、健康スポーツ医</p>	 <p>内科 (月曜日午前・午後) 赤出川 賢治 あかでがわ けんじ</p> <p>専門分野：呼吸器内科 千葉大学1995年卒業 (医局:千葉大学呼吸器内科)</p>	 <p>内科 (木曜日午前・午後) 伊藤 利洋 いとう としひろ (新任)</p> <p>専門分野：気管支喘息 奈良県立医科大学1999年卒業 (医局:奈良県立医科大学 呼吸器感染症血液内科)</p>
 <p>泌尿器科 (木曜日・木曜日午後) 根岸 壮治 ねがし たけはる</p> <p>専門分野：泌尿器科一般 東京医科歯科大学1960年卒業 (医局:東京医科歯科大学泌尿器科)</p> <p>医学博士、日本泌尿器科学会専門医・指導医 (元春日部市立病院長)</p>	 <p>皮膚科 (月曜日午後) 根本 威志 ねもと たけし</p> <p>専門分野：皮膚悪性腫瘍、皮膚科一般 北海道大学1995年卒業 (医局:東京医科歯科大学皮膚科)</p>	 <p>皮膚科 (水曜日午後) 村野 啓明 むらの けいめい (新任)</p> <p>専門分野：皮膚科一般 千葉大学1999年卒業 (医局:東京医科歯科大学皮膚科)</p>	 <p>皮膚科 (金曜日午後) 大井 三恵子 おおい みえこ (新任)</p> <p>専門分野：皮膚科一般 東京医科歯科大学1996年卒業 (医局:東京医科歯科大学皮膚科)</p> <p>日本皮膚科学会専門医</p>
 <p>眼科 (月曜日午前) 山崎 重典 やまざき しげのり</p> <p>専門分野：眼科一般 慶応大学1998年卒業 (医局:慶応大学眼科)</p>	 <p>眼科 (木曜日午前) 中川 理佳 なかがわ りか (新任)</p> <p>専門分野：眼科一般 浜松医科大学1996年卒業 (医局:慶応大学眼科)</p> <p>日本眼科学会専門医</p>	 <p>脳神経外科 (土曜日午後) 河野 武 こうの たけし</p> <p>専門分野：脳外科一般 東京大学1967年卒業 (医局:東京大学脳神経外科)</p> <p>医学博士、日本脳神経外科学会専門医</p>	 <p>脳神経外科 (土曜日午後) 浅野 修一郎 あさの しゅういちろう</p> <p>専門分野：脳外科一般 山梨医科大学1992年卒業 (医局:東京大学脳神経外科)</p> <p>日本脳神経外科学会専門医</p>

人事だより採用者
どうぞよろしく

常勤医師の採用者です。

- 循環器内科医師 村田 博
外科医師 金 沢 孝 満
外科医師 八 木 浩 一
整形外科医師 山 岡 弘 明
眼科医師 大 平 文 明

非常勤医師の採用者です。

- 皮膚科医師 村 野 啓 明
皮膚科医師 大 井 三 恵 子
呼吸器科医師 伊 藤 利 洋
生活習慣病医師 若 林 貞 男
眼科医師 中 川 理 佳
詳しくは、外来担当医師紹介欄を
ご覧下さい。

看護師の採用者です。

(助産婦・看護師は、3月より名称
が変更しました)

- 看護師 横 山 由 理
函館医療保育専門学校卒
看護師 中 久 喜 更
筑波大医療技術短大卒
看護師 関 根 裕 美 子
県立野田看護学校卒



- 看護師 飛 澤 伸 江
県立野田看護学校卒
看護師 中 村 歌 詠
県立野田看護学校卒
看護師 小 林 麻 美
県立野田看護学校卒
看護師 和 久 井 晴 美
県立衛生短大卒
看護師 飯 村 恵 子
松戸市立病院付属看護学校卒
看護師 川 崎 由 紀 江
茨城県立水戸看護学校卒
看護師 奈 良 歩
関東通信病院付属看護学校卒

理学療法室採用者です。

- 理学療法助手 田 中 由 紀
野田北高校卒

会社より異動の方です。

- 設備課員 谷 口 隆 男
野田工場製造管理部1Gより

異動の医師、大変お世話になりました。

- 眼科医師 緒 方 恭 子

- 外科医師 武 神 健 之

3年間、活気ある病院で充実した仕事をさせていただきました。皆様のご健闘をお祈り申し上げます。



久保田院長「学術奨励賞」受賞

この度、社団法人千葉県医師会より学術奨励賞を受賞しました。これは「予防医学・未病医学の推進と医学情報の提供・普及」の功績が医師会に認められたことによる表彰です。その直接のきっかけとなったのは「サラリーマンの病気学」の出版でした。



院長コラム

”ほんね”と”たてまえ”

キッコーマン総合病院院長 久保田 芳郎

子供というものは、えてして親のいうことをきかないものです。が、親と同じことを無意識のうちにやってしまうといわれます。すなわちヒトはそのヒトがいつていることではなく、やっていることを判断して行動するのです。いいかえれば、ヒトは”たてまえ”で動くのではなく、”ほんね”で動くともいえるでしょう。

先日病棟回診をしていたら、ある患者さんから言われました。「先生がこの病院で手術を受けたというのをきいて、この病院を信用しました」。皆さんご存知のように私は昨年自分の不摂生から急性胆嚢炎を悪化させ、当院の外科の先生方に手術をしてもらいました。うちの先生方の「腕」が大学病院よりいいのは知っているのですが、何のためらいもなく当院を選んだのですが、言われてみると私がよその病院で手術を受けていたら当院の信用はまるつぶれでした。

「ジョハリの窓」と呼ばれるものがあります。ヒトの心には誰でも自分の知っている窓、知らない窓、他人が知っている窓、知らない窓の4つの窓がある。自分は知らないが他人は知っている「気づかない窓」と自分は知っているが他人は知らない「隠された窓」の双方をより狭くしていく努力をすると、オープンな人格へと変貌できるといいます。

すなわち他人から自分はどんなタイプの人間に見られているか、そしてそれをどのくらい意識して行動しているかを振り返り、自分の「ほんね」と「たてまえ」を一致させるように行動する必要があるといえるでしょう。我々のほとんどは「自分の評価は高い」と思っているのに、他人は「なんだ、あいつは」と心の中で思っているのですから。

便急宅の聲

空を飛ばう！



3階北病棟
助産師
保科 美佐子

空に憧れを持ったキツカケは、中学生のときに見た映画「風の谷のナウシカ」です。あの映画を見てからずっと「空を飛びたい。でもどうすれば？」と夢を温め続けていました。

社会人になって貯めたお金でパソコンを買い、電話線を引いて早速インターネット！たくさんのホームページを見て私が選んだのはハンググライダーです。まず体験フライトを申し込み、期待と不安の中、片道2時間をかけて茨城のある山のスクールまで出掛けました。ランチャー台（テイクオフする台）に立った時にはその高さに少し恐怖感を覚えました。ただでさえ高所恐怖症の私がある私は「大丈夫かなあ。」と戸惑いもしましたが、「飛びたい！」という気持ちはそれに勝りました。

初めてのフライトはタンデムといってインストラクターと二人乗りで飛びます。またハンググライダーのハの字も知らない私は、ただインストラクターにしがみついているだけです。テイクオフ時の走り出しの練習をしたら、ランチャー台に立ち、いざフライト！ランチャー台から足が離れた瞬間、全身がフワッと持ち上がり、まるで水中を泳いでいるような感覚です。不思議と高さはあまり感じなく、先ほどの恐怖感は一気に吹っ飛びました。「すごい！本当に飛んでいる!!」飛びながらあちこち見回していると、インストラ



タンデムフライト風景

クターが「ほら、鳥がいる。」と言っています。見ると自分の何メートルも真下を鳥が飛んでいるのではないですが！更には紅葉しているたぐさの木々、遠くに見えるまるでシオラマ模型のような街並み、顔に当たる冷たいけれど心地よい風…感動です!!1回のフライトはたった3分ほどですが、それこそ天にも昇るような時間でした。現在はスクールに入り、半定期的にフライトに通っています。フライト回数は40回を超えました。またタンデムの段階ですが、自分のグライダーは購入しており、ソロ（一人）フライトに向けての準備は万端です。技術的にも「もうすぐ」というところまでできています。ソロになってからレベルを上げていくと、1回のフライトで何十分、何時間と空を飛んでいることができるようになります。

空を夢見て十数年。次の夢は「全国各地の空を飛ばう！」です。そしてその次は「世界各地の...」。空に対する夢は膨らむばかりです。

空手（こ）の、涼しい心



診療放射線技師
金井 康高

空手と聞いて皆様が、イメージするのはK-1グランプリや極真空手といった、実際に突きや蹴りなどを当てて相手を倒すといった場面を想像すると思います。しかし空手には実際に当てるのではなく、当たる寸前で突きや蹴りを止めるルールで勝敗を決める事もあります。私はこのルールの空手（寸止め空手）をやっています。始めたのは高校の部活動からでもう十年くらい続いています。



空手の型

きっかけはただ単に強くなりたかったからです。空手を始める人にはいろいろな理由があると思います。いじめられて悔しくて強くなりたい人、日本古来の武道をやってみたい人、運動不足で体を動かすため習いにくる人など人それぞれ目的が違います。今現在、空手をやりたいと思っている人がいたら気楽な気持ちでやってみてはいかがでしょうか？もし一緒に習いたい方がいたらしゃいましたら放射線科でレントゲンを撮影していますので声をかけて下さい。ぜひ一緒にやりたいですね！

編集後記

これから蒸し暑い季節を迎えますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

昔から言われているように養生法の第一は、自分の体をそこなう物を除去することです。体をそこなう物とは内から生ずる欲望と外からやってくる邪気です。前者は、食欲などの欲望・心の憂いや思い、怒りの心、後者は、風・寒・暑・湿り気の天の四気と言われております。これから夏を迎えますが、健康管理に十分留意されこれからの季節を乗り切ってください。

ところで最近の検査は、患者さん中心で思いやりのあるものに変わりつつあります。当院でも、乳房撮影や婦人科関係の検査については、できうる限り女性技師が行うよう配慮しています。当院の診療放射線技師5名の内2名が女性です。「女性技師で良かった」という声をしばしばお聞きしますので皆様のニーズに合致し、うまく機能しているのではないかと考えております。また、本文に掲載しましたように、循環器内科の医師が常勤となり、心臓検査が行える装置（心臓カテーテルX線検査装置）が近く導入されます。今後、増加が予想される血管系の疾病（虚血性心疾患、動脈硬化症など）に十分対応していかると思っています。今後とも皆様のご期待に添えるよう努力致します。

放射線科 中

